

▶執筆 人権教育課 (市役所内線 4012)



父のドキドキワクワク

私は帰省するたび、父と釣りに行くのが恒例となっています。父はいつも私が使う釣りざおや、道具の準備をして待っていてくれます。父は私が幼い頃から、休みになるたびに釣りに連れて行ってくれました。今も一人で釣りに出掛けては、慣れないスマートフォンを使って釣果を伝えてくれます。そんな姿を見るたびに、年齢を重ねても熱中できるものがある父をうらやましく感じるがあります。

令和7年9月現在、日本の高齢者人口は3,619万人に上り、総人口に占める割合は過去最高の29.4%となっています。高齢者が尊厳を保ち、安心して暮らせる社会の実現が求められる中、豊かな知識や経験を生かして、仕事や地域活動に積極的に参加する高齢者が増えており、働く意欲のある高齢者の雇用を推進する企業も着実に増えています。

80歳で3度目のエベレスト登頂を成し遂げ

た三浦雄一郎さんは、年齢にとらわれず挑戦を続ける理由を問われ、「エベレストが私にとって一番ドキドキワクワクできる場所だからです」と答えています。その「ドキドキワクワク」する気持ちは、他者との比較や優劣とは無関係な自分の心感覚です。誰もが自分らしく輝ける社会を実現するためのヒントは、こうした高揚感や好奇心の中にあるのかもしれませんが。

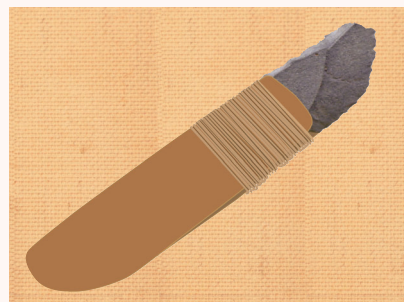
かつて、父が持ってくれていた釣りざおや道具は、いつしか私が持つようになりました。それでも、釣りに出掛けるときの父の生き生きとした姿は、今も昔も変わりません。年齢にとらわれず、身近な関心や高揚感を原動力に、地域や社会と関わっていくことが、誰もが自分らしく生きられる社会づくりの第一歩になるのではないのでしょうか。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪 80 国府型ナイフ形石器 (市原町)

▼問合せ 郷土資料館 (☎23-5992)



ナイフ形石器 (市原新池遺跡)



ナイフ形石器装着復元図



市原町の新池 (市原新池遺跡) で採集された後期旧石器時代のナイフ形石器です。その形状から、約二万年数千年前から二万年前の石器と考えられ、西脇市内において人間が残した一番古いものとなります。石材は二上山 (大阪と奈良県の境にある山) で採掘されたサヌカイトと呼ばれる安山岩の一種で、近畿地方において石器としてよく利用されていた非常に硬い岩石です。このナイフ形石器の長さは約3・5センチですが、下部が失われており、元の形では5センチほどに復元されます。瀬戸内技法という瀬戸内・近畿周辺で発達した技術で作られており、現在は郷土資料館に展示しています。

市長からの手紙 西脇を元気に!!

148



国道175号東播丹波連絡道路整備促進期成同盟会が要望会を実施

175号西脇北バイパス全線開通! 国道175号西脇北バイパス (下戸田く大伏ランプ間約5.2キロ) が6月にいよいよ全線開通します。そして、この4月には、大伏ランプ以北 (西脇市黒田庄町く丹波市氷上地域) の事業化の第一歩となる調査実施が新年度予算の中で明示されました。



西脇市長 片山象三

「強固なドアが開いた歴史的瞬間」です。地元国會議員、県會議員、兵庫県や沿線自治体の皆さまのご協力のもと、西脇・黒田庄両整備促進協議会を中心にオール西脇で国に要望を重ねてきた成果であり、深く感謝申し上げます。このたびの開通とさらなる延伸により、市内外の移動の円滑化に加え、瀬戸内海から日本海まで広域交流ネットワークが強化されます。また、地域経済や市民生活への大きな効果が期待され、西脇市の将来を支える基盤となります。一方で、「通過交通が増えるのでは」との声もあります。私は西脇の新たな可能性を切り開く好機と捉えています。バイパス周辺の土地利用を活性化し、産業振興や企業立地、播州織や黒田庄和牛などの地域資源を生かした観光交流を進め、「住み続けたい、また来たい」と思っていた、けるまちを築いていきます。「次世代へつなぐ・未来につなぐ道」の早期事業化に向けて、これまで以上に要望活動に力を注いでまいります。引き続き、ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

やさしさと想像力でまちづくり

～みんぐるの紹介～

「みんぐる」では、幸福度の高いまちの実現に向け、地域の課題を共に考え、住民主体のまちづくり活動をサポートしています。

まちなか交流広場では、子どもたちを中心に地域の学びや交流の場をつくり、その関わりが保護者や地域へと広がっています。「まちづくりは対話から始まる」という考え



の下、市民と行政をつなぎながら、誰もが関われる形を大切にしています。5月31日 (日) には、立ち上げ



から運営までサポートしている市民団体「わいわいまちなか」主催の青空マルシェを開催。まちなかから西脇市を元気にしていきます。



西脇の自然 626

フデリンドウ

リンドウ科



花は紫色の釣鐘のよな形が特徴です。フデリンドウの名は、つばみが毛筆の穂先を思わせるところから付けられたようです。

リンドウは秋に花を咲かせますが、フデリンドウは4月～5月に咲きます。茎は10センチ未満と背が低く見過ごしてしまいそうですが、まだ枯れ色が多い雑木林では、そこだけが明るく輝いて見えます。5月に入ると、コバノミツバツツジやヤマザクラなどで華やかだった雑木林も一段落して、アオダモ、アケビ、ウワミズザクラ、クサイチゴなど白色系の花が多くなります。植物だけでなく、鳥も虫も繁殖の時期を迎えて、全てが生き生きと輝きます。すてきな出会いを求めて、ぶらりと雑木林を散策してみませんか。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】